

絵

伊丹公子

カット／石阪春生

波止場を描いたら

鶴になつた

描き直したら

駱駝になつた

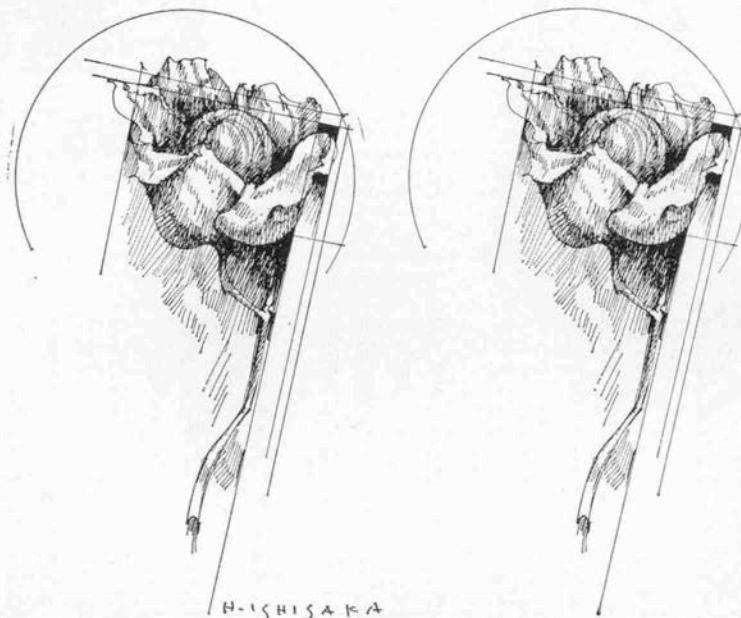
彼は

彷徨願望の画家なので

幾度書き直しても

動かない波止場は

描けないのでした



隨想二題

米・観光・両隣

三宅 武
（作家）



五年前の資料だが、近畿農政局統計事務所「作物調査」結果（昭61）によると、神戸市の米の収穫高は、一六、九〇〇tである。これは、市町単位で全県のトップである。このことは、市の面積が広いことにもよるが、私にとつてちよつとした驚きでもあった。二位姫路市一四、四〇〇t。三位加西市一三、三〇〇tと続く。トン数は年々減つていようが、順位はこのままだろう。

神戸生まれの神戸育ちと、自負しているつもりの私が、神戸がこれほどの米どころであることに気づかなかつたことを恥じる。

ファッショントリニティKOBÉとい



SIGHTSEEING KOBE 5.
開帝廟

う感覺に慣れすぎていたのだ。東は三宮周辺から西は元町西口あたりまで、北は北野町から南はポートアイランドまでが、せいぜいフアンションの町らしい。あとほどこの都市にもある生産と生活ゾーンである。

目を転じ、離宮公園、六甲山、有馬、農業公園、水族園などへ大型連休に行くと、駐車場入りを待つ車のナンバープレートの大半が他都市のものであることに注目させられる。神戸は大観光地になつたらしい。

毎日この町の都心部まで働きに来て、〈それゆえにかもしれないが〉迂闊にもわが町の姿を見失つていたことを自覺する。

三十年昔、九州の人から神戸のイメージについて、ひどいことを言われた。マヤク・ミツユ・バイシュン・ボウリヨクダン……もつと強烈なことも言われた。当時、



観光都市神戸・卒業旅行では人気 No. 1 だ。

市民の見る神戸と観光客の見る神戸は視点のちがいがあつて面白いと想像するが、「向こう三軒両隣」にあたる芦屋、明石、三田、

三木、対岸の淡路に住んでいる人々が見た神戸という町の印象は、いつたいどんな姿なのであろう。耳をかたむけることで、行政も民間も大きな情報を得るかも知れない。もう、アクション映画の舞台ではないはずだ。

アクション映画の舞台は神戸と横浜がよくつかわれた。先入観を持たれたのだ。

さて、生糀の神戸人のつもりの私が、米の収穫量におそまきながら驚いたり、押しよせる観光客に戸惑つたりするのは、しまらぬ話だが、所詮「地元住民」は己が暮しの場からしか町を見ていない。

案外、観光客のほうが、神戸の「見どころ」を心得ていると思う。神戸観光は、二泊が常識とう。

「見どころ」を見ていいと思う。神戸観光は、二泊が常識とう。

芭蕉布との出会い

深澤 信一

（東京海上勤務）



「復員」、ずいぶん古い言葉。きっと、いまは、死語かな。三十年

余の間、離れていた神戸に帰ってきた。おそらく、後半の生涯をコウベで暮らすことになるだろう。

学校を卒業して、パイロットへの夢断ちがたく、航空自衛隊の幹部候補生学校（奈良）に入った。操縦適性検査、航空身体検査はパスしたものの、いざ、実際の航空実習で見事イルミネート（失格）になってしまった。

それからといふのは、主として人事・総務・広報畑を歩いた。

防衛庁航空幕僚監部（六本木）、三沢、小牧、小松、芦屋、新田原、那覇の各基地。隊員募集の熊本地方連絡部、レーダーサイトの福江島（五島列島）などなど、十数回の転勤を重ねた。

両親や兄弟が神戸に居るため、神戸には時々帰省したが、帰ってきてみると、めざましい変化に驚くことばかりである。
退官の挨拶状を出すと、二通りの返事が返ってくる。「神戸はコワイところだそですか、呉々もご用心を。」「神戸は自然に恵



まれ、人柄も良い土地ですから、大いに楽しい後半生をお送り下さい。』といつたもの。

『各地を廻って、どこが一番良かったでしょうか。』よく聞かれると質問だが、「どこもそれぞれ、特徴があつて良いところばかりでした。』と答えている。

勤務した中で、特に印象深いのは、「オキナワ」。故佐藤栄作総理は「沖縄が本土復帰しない限り、戦後は終らない。』と断言された。

沖縄が無事、本土復帰して、自衛

隊が部隊を展開、航空自衛隊は米軍からアラート（緊急発進）任務を徐々に引継いでいったが、沖縄戦の後遺症が強烈であったためか、沖縄での反自衛隊感情は、すさまじいものがあった。そのような環境の中で、音楽は、思想を超えたものであった。



沖縄の作曲家、普久原恒勇氏と親しくさせていただいた。氏の「芭蕉布」はNHKの名曲アルバムにとりあげられ、全国放送されたが、いつの日か、誰もが口ずさめるものにして世に出したいと十余年あたためてきた。

定年を機に、自主製作、CDにして東芝EMIで作ってもらつた。歌い手は、大阪出身のシャンソン歌手「奥田真裕美」さん。カラオケもつけた。「百聞は一聴にしかず」これが「復員」のメッセージである。

平成3年5月澤深信一佐送別パーティにて。
シャンソン歌手奥田真裕美さん、栗崎博光さんも駆けつけた。

△その145▽

パリの新時代をのぞく ——オルセー美術館の新しい姿を見て——

嶋田 勝次

（神戸大学建築学科教授）

先年チラッとのぞいたパリは、

フランス大革命二百年の記念に向けて大改造中であった。

それは十大プロジェクトと称し、いくつもの計画がアビールされていて。シャンゼリゼ大通りから真直ぐ西へ伸びるセーヌ川下流の向う側に造成されて来た副都心のデファンス地区に、グランド・アルシュ（新凱旋門）と呼ばれる

大構築物も生まれているし、またループル美術館も、これまでのル

ープル宮の西南部だけの利用から全面的利用に展開して、広く大きく充実して来ている。それらのいくつもの提案の完成した姿を見ることが大きな楽しみだった。

その中のひとつにこの新しい近代美術の殿堂となつた当オルセー



オルセー美術館

美術館がある。

ループル美術館の南西部、セー

ヌ川をはさんだ対岸に立つこの建

築は、もともと一九〇〇年のパリ

万国博（グラン・パレ・ド・パレが

建設されて開催）に合わせて博覧

会場と直結させようというねらい

があつたらしい。

この大空間建築は駅舎として建

築されていたようだが、この中に

近代美術作品がたくみに分類され

て見せてくれる。

見学の第一部として、地上階の奥はオペラ座の紹介に当たられていて、床は強化ガラスが敷かれてその下に航空写真が貼られていて上空から手が届くような風景が見られるし、またその横にはオペラ

座の内部まで立体的に表現して見

せてくれている。

この階の北側と南側は十九世紀中葉の、アングル・ド・ラクロア・ド・ミエ・ミレー・ク

ールベ・モローなどが見られる。

その上の中階北側には、ロダンの彫刻が置かれて

いるし、中階南中

側には、ブールデル・マイヨールなどの巨匠の作品が身近かに置かれている。

この階ではその他広くアールヌイボーからグラスゴー派・シカゴ派など、近代に花咲く過程を見ることが出来る。

そして最上階は見学第二部として、印象派・新印象派等々の画家の作品があふれていて、とにかく圧巻である。

マネ・モネ・ルノアール・ロートレック・ゴッホ・ゴーガン・ドガ等々が次々と現われて来る。

ゆっくりと鑑賞したい気分もあるのだが、この都市の環境にゆっくり触れたいと思いかけると、次々とちがう欲求が、頭をもたげて来る。

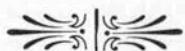
それに今日はまだこれから船上でフランス料理を賞味しようといふ楽しい予定まであったものだから、パリの魅力に親しむ時間がまだまだほしいと思えて来る。

今回はループル・オルセー・ポンピドウをのぞいたので、今回のパリの美術館見学はこれ位にして、街の様子にもいろいろ触れたいくつた。だが、手近かなところからと思うと、シャンゼリゼから、サントーレ・レアルとなつてしまふ。

また時間との競争なのだが、パリ大学都市か、プローニュの森か、ベルサイユ宮殿に遠征するか、蚤の市を冷やかすか、と思うだけで、体力との賭けになつてしまふ。次回があると勝手に納得。

Juchheim's
The people's doctor
Hans-Peter-Johann Juchheim
Ritter-Pfleidererstrasse 10
D-7400 Heilbronn
West Germany
Since 1882

ユーハイム創業70周年記念企画
スペシャル・アニバーサリー・ケーキ



特別の日のお祝いのために、季節の恵みを吟味し
心を込めてつくり上げました。マンスリーごとに
オリジナルデザインでお届けいたします。

予約限定商品ですので、
一週間前までに御予約下さい。
御希望日に御希望場所へお届け致します。

価格 20,000円 (税別)



佐本
産科

ママといっしょに



赤ちゃん：河本 珠奈ちゃん（平成3年4月1日生）

ママ：明美さん

「珠奈はお父さんお母さんの宝物です。
元気にすくすく育つ事を願っています。」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
☎575-1024(病室☎576-9639)

市バス上沢4停南スク

旅のかたち

19

二本の木

安水稔和

絵／中西 勝

秋山郷上野原の宿「のよさの里」の朝。目覚めると、雪の林のむこうに淡い紅色の鳥甲山が浮きあがる。寝たまま窓床のなかから窓いっぱいの雪の山肌を眺めていると、薄紅色がみるみる濃くなつて、やがて白く輝きだす。

バス停まで宿の車で早目に送つてもらつて、バスが来るまでの一小時間、あたりを歩きまわる。道ばたに顔をのぞかせているフキノトウを摘んでまわる。雪解けの水音、しきり。谷むこうに屹立する鳥甲山の、雪と雪のとけた地肌とが作る絵模様に目を奪われる。ひつきりなしにきこえる鳥の声。ひとりきわ近くきこえる鳥の姿を探すと、林のなかのおもつたよりも遠くの枝にいた。ひとしきり鳴き、鳴きおわって枝間をせわしく動きまわり、またひとしきり鳴く。

林のかげからバスが突然あらわれる。あわててバス停へ走つてもどつて乗りこむと、バスは身ぶるいして走り出す。このバスで谷の一番奥の切明まで行つて、そこで折り返して、今日は谷を出る。この谷もこれでもう三度目。バスの窓からのおおかたのこと覚えてしまつて。あ、あの木、あ、あの家、あ、あの曲り角、なんていうふうに所々に目じるし作つて。

切明から和山、上野原と下つてきて、次は座敷

という部落がある。谷あいには珍しくわずかながら平地があり、家があり田畠がある。一昨年の夏はじめてこの谷にやつてきて、座敷の川ぞいの宿に泊つたとき、平地のまんなかに並んで立つ二本の大きな木を見つけて、目をみはつた。亭々とそびえる二本の木は、山風に枝葉をそよがせて立つていた。ところが昨年の春に来たとき、雪のなかに立つてるのはあの二本の木にちがいないのが、なんだか様子がちがう。一本はあいかわらず山風に枝葉をそよがせているが、もう一本が棒のように突つ立つていて。葉をすべて落して枝もあらわに立つてているのだ。常緑樹と落葉樹、わかってしまうはそれだけのことだが、それでもなんだか不思議、ずっと頭から離れなかつた。もうそろそろ見えるぞとバスの窓から目をこらしていると、雪の台地に二本の木、寄りそつて夢のようになつて立つていた。

飯山線で長野にもどり、篠ノ井線快速に乗りかえて。さて、もう一泊しようか。では、どこで降りようか。降りてどこへ行こうか。

森宮野原駅に着いて、駅前の飯屋で昼食をとる。同じ場所へ何度も出かける癖があると前回書いた。加えてもうひとつ旅の癖を書くと。旅の途中



なんとなく松本で下車。駅前の案内所でたずねて、タクシーで美が原温泉和泉屋に入る。土蔵づくりの宿。雨。次の日も雨。松本城のそばにある日本民俗資料館松本市立博物館を訪れる。常設展示のひとつ、世界の古時計・本田コレクションのなんとさまざまの時計群、なんとさまざまの時の姿。オマケのポケットの中身はなかなかのもの。

はじめて秋山郷へ来たときは、出発の朝に野沢グランドホテルに電話して出かけた。次日に谷に入った。帰途、昼すぎに谷を出て津南の町から電話して、長野から電車とバスを乗りついで夕暮の山田温泉風景館に入った。二度目のときは、出発前夜に谷の口にある逆巻の宿へ電話して出かけた。帰途、長野へ戻らずバスで越後湯沢へ出た。

塩沢へ行つて「秋山記行」の著者鈴木牧之の墓所に詣で、鈴木牧之記念館を訪ねたが、これはあらかじめ旅のメニューに入っていたこと、次の日、上越新幹線で東京に出て東京ステーションホテルに泊つたのは、仕事がらみのこととはいえ、オマケといえる。三度目の今回も出発前夜に逆巻の宿に電話して出かけてきたのだが。

で、オマケといつていいいのか、フロクといつていいかのか、予定にはなかつた場所をちょっとと付け足すという癖が私にはある。オマケのポケットとでるだろう。気ままな旅が好きで、全行程のスケジュールなどあらかじめ組んだことがない。泊つた宿から次の宿へ電話して泊り歩く。帰るとなつてもうひとつ余分のオマケをつい付け足す。

画集が出来て

元永 定正 ▲画家▼

元永定正作品集をつくりうか、という話があったのは、一九八八年八月、新潟の創庫美術館「点」での私の個展のときであった。

それから一九九一年七月十三日、大阪丸ビルのマハラジャでの出版記念パーティーまで、まる三年間の月日が流れていた。

これは一つは「ぐたいのころ」とタイトルされた私の文章、むかしかいのエッセイなど含めて原稿用紙百枚程がなかなか出来なかつたこともあつたが、経歴や文献、他の資料をそろえるのが大仕事であつた。

そんなことは私にはとても出来る才能がないわけでも私の回りでは一番なにもかもわかつてもらつてゐる女房の方へしわよせが行つてしまつたが彼女とて作家だしあれこれと仕事がなかなかはかどらなかつた。

この作品は何時かいたの？ タイトルは大きさはと聞かれても私にもすべての作品がわかるわけがなかつた、あっちこっちの資料の山をかきわけ

てやつと見つけたことも度々でもううんざりしたものだった。

当然のことながら新らしい仕事や個展の〆切日がせまつてくるしグループ展でヨーロッパ行きなんてことになると「昔のことなんてもう知らん」そんなストレスだまりの時間が過ぎたのだった。

また出版の博進堂が新潟なので打合せの時間をとるのもむづかしく印刷の都合もあつたのだろうか十カ月あまりも連絡なしということもあつた。

元永定正の小論を友人や先輩にたのんで結局二十五人にかいてもらつたのだが早く原稿をいただいた人達から「何やつてんの、もうぶれてしもうたんか」なんてよく云われたしその一人須田赳太さんにはこの画集をお見せすることも出来なくて亡くなつてしまわれたのは残念のきわみで

何ごとも一つ仕上げるにはいろいろな力が必要だ、今回もたくさんの皆様にお世話になつた、それにしても資料を完璧に集めるなんて至難のこと

SADAMASA

1946-1990

MOTONAGA

だと思い知らされた。

しかし作品のカラー写真は制作のたびに私自身で全部撮影しているし旧作の大きな絵は故・岩宮武二さんに全部撮していただいたのが役に立つた、大変うれしいことでした。

出来上った画集をめくつているとその時々の作品についての想い出が浮びます。

具象の頃の「能人形」は絵のぐも人から使い古しをもらったものばかり、伊賀上野の街をかいた「踏切と柳のある風景」は今ではすっかり変ってしまったが踏切のある場所だけは変りがない。裸婦の絵は伊賀から始めて神戸に出て来た頃の作品である、それから私は突然抽象画を始めたのだが、何もわからず全くの手さぐりで自分の世界

をさがしたのが初期の抽象画ということだ、それから絵のぐを流した作品は十年続いたし東京画廊やニューヨークのマーサージャックソン画廊での個展、プレミオリソーネー国際展では受賞もした、そして本格的な形の時代は一九六六年ニューヨークの生活から始まった。

一九四〇年から一九九〇年までその頃その時の作品はキャンバスだけでは無かつた、カーペインティングや壁画、椅子、タピストリー、陶板など多くの仕事がこの画集に収録された。

出版記念のパーティは世話人会で今までの形式を破つて面白い場所がないものかと考えた上、ディスコのマハラジャに決定した、当日は四百人程の友人知人が参集下さって大変賑やかなパーティになつたのは有難いことでした。

しかし何といつても画集は過去の集積。

それはそれ次の仕事を考えよう、アトリエには新らしいキャンバスが私を待っているのだ。



上／いろはの2 1978 下／出版記念パーティーにて

■元永定正作品集

筆者の一九四六年から一九九〇年までの作品が年代別にまとめられており、作風の変遷に興味をひかれる。

また、25人の美術関係者らによる元永定正論も筆者の魅力をあますところなく紹介している。

（博進堂刊 一二五〇〇円）

□トランペット片手にブラジル一人歩き△34▽

Miamiから New Orleansへの旅

絵と文 右近 雅夫 △在ブラジル・サンパウロ▽



昨年暮れ、僕は一生のうちに是非一度は行きた
いと思って居た New Orleans に家内のマリアと
息子の三人で旅行したが、其の途上 Miami に立
ち寄った。空港で入国検査を終えると未だ五時半
だと言うのに、もう薄す暗い。サマータイムのサ
ンパウロからやつて來たので、時差と、こちらは
冬に成りかけて居ると言ふ事を忘れて居たのだ。
サミィ・デーヴィス・ジュニアみたいな顔をした
ポーターに「Alamo のレンタ・カーや！」と言
うと、空港の表で向うから來たマイクロ・バスに
僕等のトランクをほうり込んだ。僕等三人と後か
らやつて來た新婚の夫婦を乗せたバスは、夕方の
ラッシュの中を途中から横道へ入つて、やつとレ
ンタカーの事務所に着いた。スペイン語を話す女
の子が応待して呉れたので、手続きはスムースに
行つたが、外へ出て車を渡されるともうとくに
日が暮れて居た。「初めて外国で車を運転するち
ゅうのに夜に成つてしまつて、ほんまにえらいこつ
ちや！」と思つたけれど後の祭りである。予約し
といた Miami Beach のホテル迄行かねばなら
ない。旅に出る前買つたマイアミの市街地図で、

「国際空港からマイアミ・ビーチ迄は高速道路を
真っ直ぐ行けば至極簡単や！」と思ってたが、バ
スが途中、ぐるぐる迂回したので勝手が狂つてしまつた。丁度其の時、やはりレンタカーを借りて
外へ出ようとして居たブラジル人の夫婦を見つけた
家内が大声を張り上げて呼び止めた。同じ飛行
機でサンパウロから一緒やつたのである。「何や、
そんなら其処返わしの後をついて来たらええ……
」と親切に高速の入口迄送つて呉れた老夫婦に
手を振つて別れ、地図を片手に無事ホテル迄辿り
着く事が出来た。

行き当りばったりで呑気な僕等は其の翌日がア
メリカの休日だと言う事を忘れて居た。運良く開
いて居たユダヤ人の店で日本製ヴィデオ・カメラ
を買い旅行中写して歩いた。「お昼に寿司が食べ
たい！」とマリアが言つたのでホテルの電話帳
で調べておいたスシ・ハウスを探して歩いたが
生憎全部閉まつて居る。すぐ腹が減つて來たの
で、Collins Ave. で大きなビルの駐車場に車を
止め、ガードマンに尋ねると、「レストランなら其
のエレベーターに乗つて(M)と言うボタンを押せば

よい！」と教えて呉れた。エレベーターを出ると、成る程其処に立派なレストランが有つた。きれいでデコレーションで飾られて居るがお客様が未だ一人も入って居ないので「如何しようか？」と迷つて居ると支配人らしき男が出て来て、予約説明すると、「予約して無くてもOK!」と言つてテーブルに案内された。

「今日は Thanksgiving Day (感謝祭) で本當なら無代でお客様にサービスし度いのですが、実費七ドルだけ頂いてフル・コースのお食事を楽しんで頂きます.....」と言われ、やつと今日はサンクスグイヴィングのお祭りの日だったと気が付いた。暫らくすると次から次へとお客様が入つて来た。いずれも七十から八十歳位の老人ばかりで、特に婦人は帽子をかぶり正装に着飾つて居る。何故あんなに安くしかも老人ばかりが居たのだろう



入江に面したマイアミの Bayside Shopping Center

う？と不思議に思い、ブラジルに帰つてからマイアミの事情に詳しいアミゴのフェルナンドに尋ねると、「何だ！お前は停年年金生活者の昼食パーティに行つたのだよ！頭の毛が白いからきっと間違えられたんや」と言つてゲラゲラ笑つた。

最近ブラジルではマイアミへ旅行するのが一寸したブームに成つて居る。インフレのブラジル国内よりホテル代等も安くつくし、ダントンの一角にはブラジルの旗を掲げて英語が出来なくてもポルトガル語で買物が出来るブラジル人相手の店が沢山有るからだ。ところがブラジル人観光客を狙う泥棒や強盗が増え、最近治安が悪く成ったと言う話を良く聞かされて居た。僕等のホテルの寝室のトイレの入口には等身大の鏡が付いて居たが、夜明け方トイレに起きた家のマリアが暗闇の中で鏡に映つた自分の影を泥棒と間違え大声を張り上げると言うハッピーニングがあつた。

港の側に有る Bayside Shopping は入江に沿つて建てられたショッピング・センターだが、僕等が行つたのは丁度夕暮れ時で、夕やけをバックにイルミネーションが水に映りロマンチックな風景だつた。ショッピングのヨットバーに横着けした漁船からおろした取りたての魚を売つて居るものも面白い。僕等は SEAFOOD 専門のレストラン、「Dockside Terrace」で夕食をとり帰途についた。下町とマイアミ・ビーチの間は二車線のハイウェイが海の上を走つて居るが鉄柵も何も無く、其の真横に大洋航路の客船が停泊して居るが、よくあれで車が海に落ちないものだ？と心配させられる。明日はいよいよアトランタ経由のデルタ・エアー・ラインでニューヨーク・オルリンズに向

毎年九月初旬頃になると思い出すのは、サハリン沖で撃墜された大韓航空機の事件である。当時、私はこのニュースを、スコットランドのツイードの近くの小さな村で、宿屋の女将から聞いた。この宿屋の小さなロビーのTVに、突然日本語のアナウンサーの声で中継録画があり、下段に英語の翻訳文が事件の詳細を語っていたのだ。思わず遠く異国の方居る事を忘れる程であった。世界の出来事が即時に目に入る現在、茶の間で湾岸戦争やソ連のめまぐるしい政変を目にする事が出来るのは

エディンバラの夜は更けて （第三話）

前田 和穂 ▽建築家・シャーロックホームズ株代表取締役▽



キルト姿の男性（右）と筆者



（写真上から）筆者が泊った宿
屋、道を尋ねられた老夫婦、チ
ューダー王朝風の建物。



にうまく行く人生なんて、考えただけでも面白くない。又一人旅ほど素晴らしいものはない。他人に気を遣う事もなければ、失敗もよし、又責任の転嫁もない。自問自答、只自己の判断のみで行動する。但し間違っていても正しくても他人の評価はない。

さてロンドンでレンタカーを借りる。この季節は英国の気候も最高である。田舎を駆け巡るには屋根のないスピードカーだと最高なのだが、無いと云う。経済的なピント一、三〇〇が得だと係員は云う。道路事情は非常に

もはや世界の意識が一つに纏まりつつあると云うことでも語っている。

八年前、私は夏の休暇で英國の田舎を駆け巡る計画を立てた。ドーヴィアーホームズ・ジャパン㈱は、英國チューダー王朝時代（15世紀末から約一世紀）に流行した重厚な木造建築を手掛けています。

優れ、英國の特色だが、交差点は必ずサークルになつて見通しが良く、左側のみ注意して走れば容易に進行出来る。道路地図は簡明に記載されていて（M・A・Bに分類され、Mは高速道路、Aは国道、Bは県市道と云う具合で）実に分り易い。日本の道路地図は、親切すぎて繁雑だ。ストラットフォード、アボン、エイボンはロンドン西よりM6に乗ってA385とクロスするインターで降り、B106に云々と書いてある通りに注意して走れば所要時間約二時間と計算出来る。所が計算外れは屢々のこと。一人旅は時には不便なもので、Mを出てAに入り

サークル交差点で回っている間にBの番号を忘れて了つた。エイままよと横文字を読んだつもりも運転中は満足に理解出来ない間にとんでもない方向に車が走り込んでしまう。遂に道に迷う。暫く田園風景を楽しみながら走ると先方から古くさい自動車がヨタヨタと走って来るのが見える。一九二〇年代の古典車で、それに似合った上品な老夫婦が日傘をさして私の車の前で停車した。思わずカメラを構えると先方から声がかかった。老紳士が帽子をとり、「道に迷つたのが御教示願い度い」とたまう。「当方も迷つております」と大声で答える。双方大笑して走り去る。暫くすると森に囲まれた美しい部落に入る。どの家も同じ石で造られた壁、同じ色の屋根、同じ様な窓枠のベンキ。思わず車を止めて辺りを散策すると丘の上に道が続いており、一際大きな門に「オーブンハウス」と書いてある。車を乗り入れると、何と莊園の領主の館である。萬に覆われた石灰石の堂々たる館で一六九七年建造と彫つてある。庭に回ると約一〇〇〇坪程度の英國風の庭園を三々五々老人夫婦が散策している。裏手に温室があり、數組の老人夫婦が若いゴム長の紳士をとり囲み話を聴いている。どうやら庭造りの講義をしているらしい。異国人が闖入したので一様に驚いて私の顔を見て講義が寸断するや、上品な老夫人がお茶を入れて、私のつづ立っている所まで運んできて椅子をすすめて下さった。顔立ちで、ゴム長靴をはいているのは、王子様、お茶を入れて下さったのは領主の御母堂と推察致し、誠に以て恐れ多い事と恐縮する。帰り際に御両人が書かれた『英國女性の庭園』(The English woman's Garden Alville Lees-Milne & Rosemary Verey)なる美麗本をサイン入りで購入することとなる。

思わぬ所へ迷い込んだお陰で、現代英國の貴族の生活を垣間見ることが出来た訳である。
さて、目指すストラッドフォード、アボン、エイボンドのエディンバラに向う。イングランドとスコットランドの国境附近は、行き交う車も殆どない山道で、広大な山地に突如、ゴルフ場の様に良く整備された牧場や遠く

に美しい牧場主の家が散見される。牧場毎の境界は石で積上げられ近世に起つた『ヨーマンリー』(註・農民の囲い込み運動で貧農は農地を取上げられた事件)の名残りを留めているのであろうか。日暮れが近づきツイード川と書かれた標識に沿つて上ると、小ぢんまりと可愛らしい宿屋が目にに入った。今夜はここだと即座に決める。手入れの行き届いた室内から愛想の良い若い女将が出て来て、冒頭に書いた大韓航空機の一件を話してくれたのであった。そして『貴方はタトゥーを見に行くのか』と聞くので一体それは何なのかと問うと、明日、年一回のエディンバラのお祭りで、お城の中で、ターランチエックのキルト(スコットランドの民俗衣裳)を着用した兵隊や樂隊の大ページエントがあり、貴方はそれを見る事が出来ればラッキーな事だと申すのである。チケットは駅の売店でも買えるので是非行けとの事である。二十年程昔、私はエディンバラまで何と云う事もなく訪れた事があるが、記念にキルトを買って帰り、時折、神戸外人クラブでのスコットランド協会のパーティに着用して虫干ししている有様だ。キルトは男の民俗衣裳としては世界一美しいと信じている私であるから、二つ返事で行く事とする。

エディンバラ市内に入ると、道の両側は旗で飾られ、人々は皆お祭り気分で歩いている。切符はすぐ手に入つたが、何と公演は真夜中の十二時と午前二時の二回行われると云う。夜ともなれば当地はもう寒い。城門の近くのハブで、暖でも探ろうと重い扉を押すと中は満席で、すでにきこした醉客が、異形の私を招き入れ、ビルや、ウイスキーを振舞ってくれるのである。Rの発音にきつい訛りのある男が私に何事か尋ねるがさっぱり判らない。「この男はシェットランドから来た人だから、東洋人のお前さんは判らんだろう。我々スコティッシュでさえ判らんのだから」と皆大いに笑う。気の好い連中と共に城門の中へ入り指定席に坐る。

雄壮なページェントはバグパイプ、鼓笛の各隊が次から次へと現われては消え、人々の歓声は止む事がなかつた。『エディンバラの夜は更けて』。正しく私には思い掛けない旅の思い出の一頁であった。

◆◆◆

まろやかなコーヒー味の
オリジナルケーキです

◆◆◆

手作りの味わいをお試し下さい



★★★ カフェロール ★★★

¥ 1200

—北欧の銘菓—
ユーハイム・コンフェクト

じぶん再生。

24時間テープ案内 / 06(312)4048

★年中無休(AM10時～PM7時)★カウンセリング無料

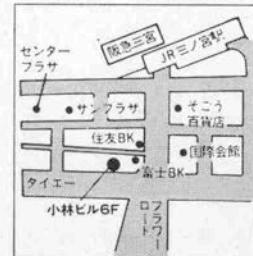
神戸

☎ 078(331)7183

神戸市中央区三宮町1-3-3
小林ビル6階

大阪

☎ 06(312)1420



品川美容外科

●東京 ●大阪 ●名古屋 ●福岡 ●鹿児島 ●広島
●京都 ●横浜 ●千葉 ●仙台 ●札幌

各種カード・クレジット・ローン可